

著者・読者・不特定:人を
付与する際の基準

不特定:人の細分類

- 特に想定していない(一般論、本当の不特定)

利息を(㊦ガ)示す方法には実質年率を用いることが方法で定められ義務付けされています。

日本で一番大きなお寺と(㊦ガ)いえば、奈良の東大寺です。

- ある程度限定されるが、文中で言及されない人物

- 必要に応じて不特定:人1などにする

ゾメタはそうした諸問題を軽減するために(㊦ニ)開発された薬剤です。

開発したのはその企業の研究者

- 個人レベルまで限定される場合でも、言及されていない場合は「不特定:人1」

今日も何も口に(㊦ガ)していません。
病院から戻ると疲れたのか(㊦ガ)眠ってしまいました。
早く熱が下がってくればいいのですが。

「著者の息子(娘)」などと推測されるが、言及されていないので「不特定:人1」を付与する

- 後で言及された場合には「不特定:人1」でタグ付けし、後方の表現に「=不特定:人1」とタグ付けする

リオデジャネイロオリンピック(㊦ガ)出場に向けての取り組みを紹介します。
ラグビー日本代表の試合結果などを掲載します。(=不特定:人1)

- 後方の表現が複数だった場合には「=≡不特定1」で付与する

荒川は洪水(㊦ガ)予報河川に指定されています。
建設大臣が気象庁と共同して洪水予報を行なっています。
(建設大臣 ← =≡不特定:人1、気象庁 ← =≡不特定:人1)

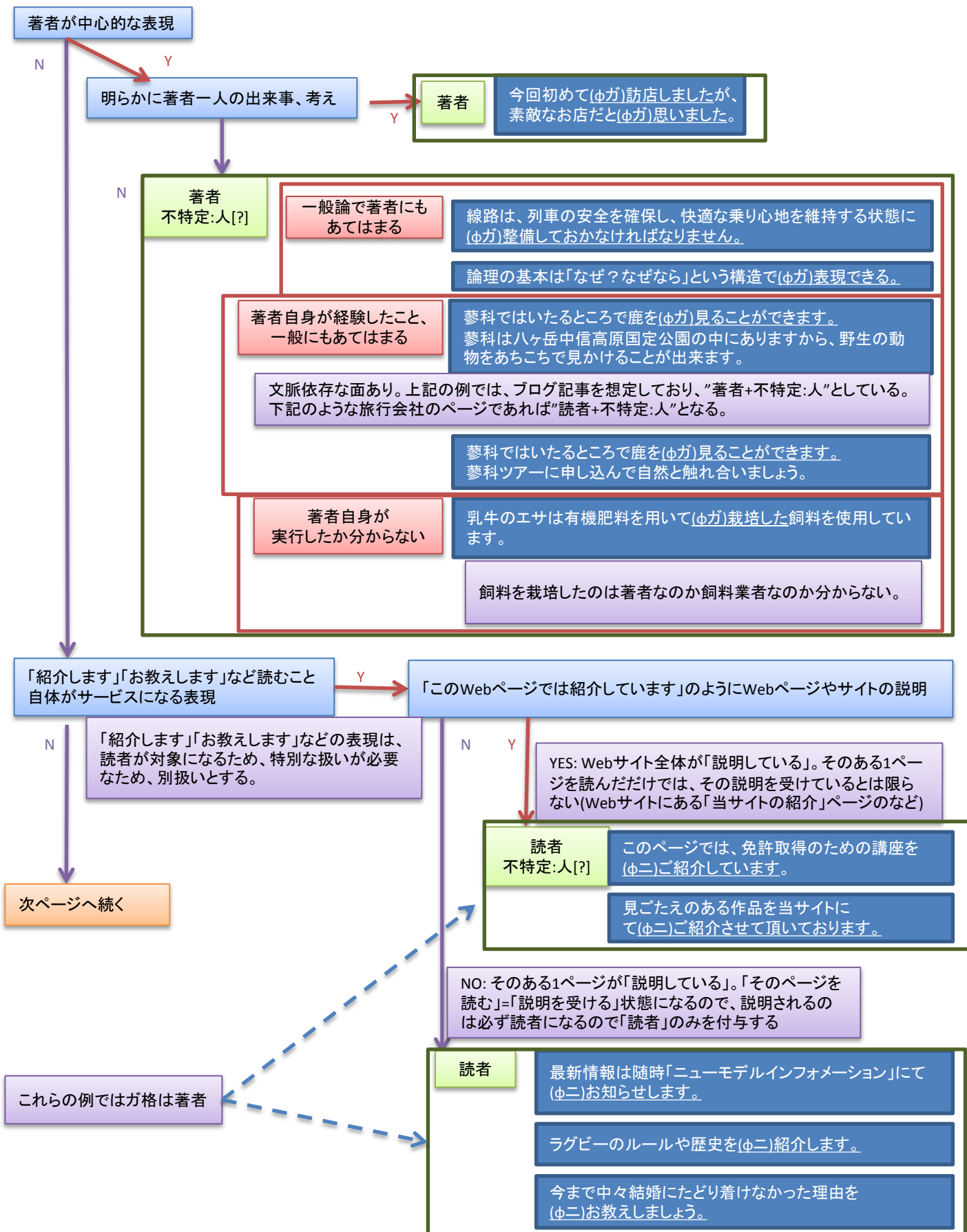
著者・読者・不特定:人の複数付与

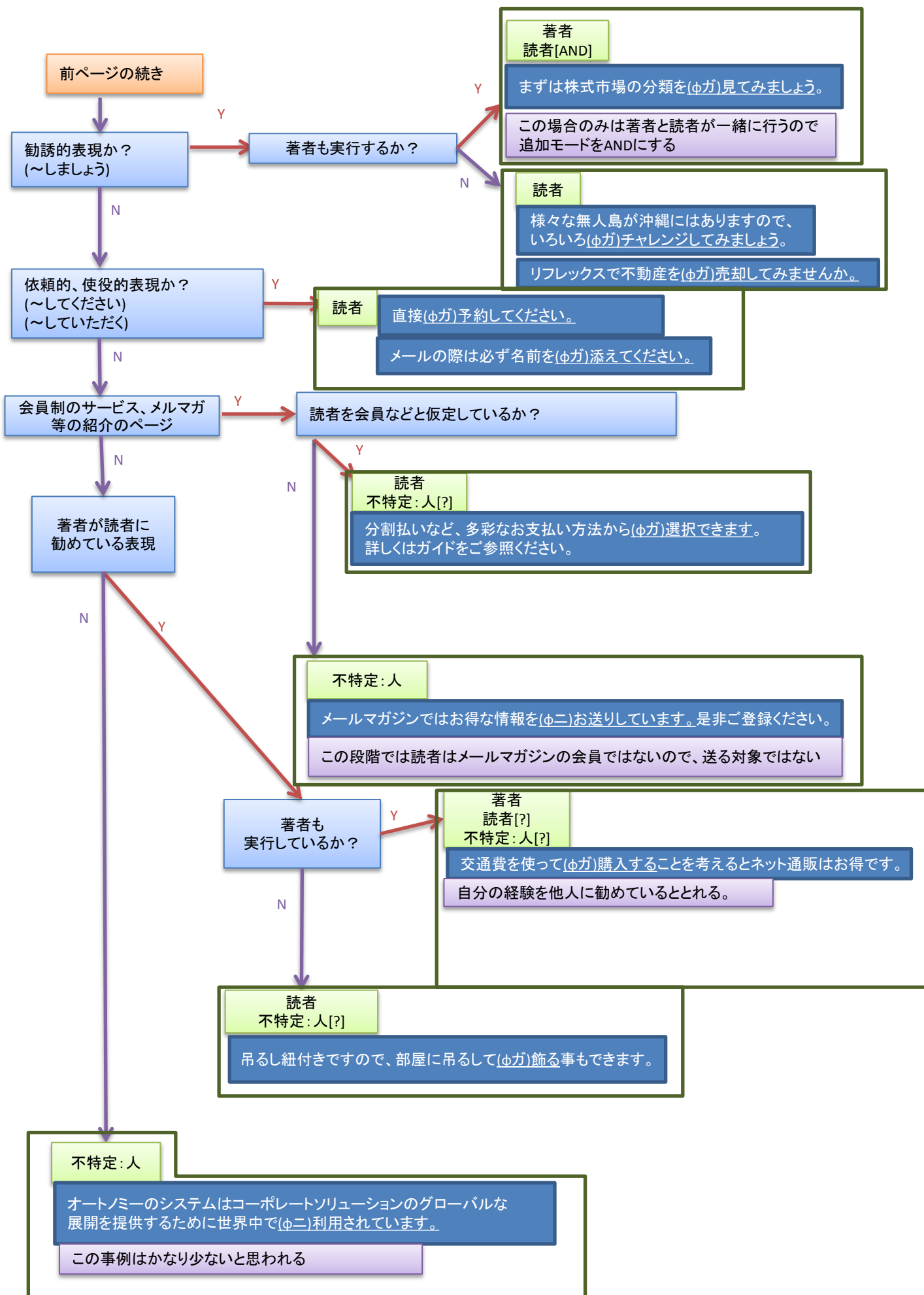
- 動作主・受け手が一意に決定できない場合には追加モード“?”で複数付与する
 - 特に著者・読者・不特定:人が一意に決まらないことが多い
 - ウェブサイトの反応を収集するためにゲストブックを(ゆが)設置することができます。
(読者とも言えるし、不特定:人とも言えるので両方を付与する)
 - 以降では著者・読者・不特定:人に絞って議論するが、著者は“=著者”が付与された表現、読者は“=読者”が付与された表現についても同様である
 - 判断に迷った場合には1つだけ付与するのではなく、複数付与する方を優先する

著者・読者・不特定:人を 複数付与する文書・表現、しない文書・表現

- 複数付与する可能性が高い文書
(次ページ以降の判断基準を参照してください)
 - 著者が文脈・話題に登場する
 - 「~と思います」「~すべきです」など著者の考えやモダリティ表現が含まれる
 - 謙譲表現や丁寧表現が多い(読者に著者を意識させる働きがある)
 - 省略で著者が登場する
 - 読者が文脈・話題に登場する
 - 「~してください」「~しましょう」など依頼や勧誘の表現が含まれる
 - 「~することができます」「~していただけます」など読者に行動に対する表現が含まれる
 - 尊敬表現が多い
 - 省略で読者が登場する
 - ✓ 読者と不特定:人が曖昧場合も含む
 - 複数付与する可能性が高い文書でも、付与対象の表現・文脈から1つしか付与されないことが自明の場合は判断基準を参照せずに付与して構いません
 - 「~と思います」のガ格が著者であるなど
- 複数付与する可能性が低い文書
 - 客観的な事実のみが書かれた文書(不特定:人のみを付与)
 - 新聞記事、辞典記事など

「著者」「読者」「不特定:人」の付与基準





- 周辺文脈(埋め込み文の場合主文など)を考慮して決定する
 - 「業者を選ぶポイント」は一般論とともれるが、「伝授」されるのは「読者」であることから、「読者が選ぶポイント」と考える

読者

正しい業者を(φガ)選ぶポイントを伝授します。

無人島ツアーに(φガ)参加して、ひと味違う沖縄を楽しみましょう。

- 必ずしも主文や周辺の表現と統一する必要はない
 - 「歳をとると」「忘れがち」は一般論とも言えるので、不特定:人,著者[?]
 - 「感じた」「気がした」は著者のみ

歳をとると忘れがちな「何か」を久しぶりに感じた気がしました。